

## ◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が11例(男性 5例(30歳代 2例, 40歳代 2例, 50歳代 1例), 女性 6例(10歳代 1例, 20歳代 2例, 30歳代 1例, 40歳代 1例, 60歳代 1例))あります(第26週追加報告分 1例含む)。本年の累積報告数は163例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約6.3倍となっています。全国の累積報告数も12, 495例と平成24年(2, 391例)と比べて, 約5.2倍となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	2	3	37	32	31	4	2	111
女性	2	4	25	7	5	5	4	52
合計	4	7	62	39	36	9	6	163

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は, 1.83(73例)で, 4週連続で増加しており, 本年度で最も多い報告数となっています。夏季の流行ピークに向けて患者数の増加が懸念されますので, 動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2.28(91例)で, 前週 1.78(73例)に比べ約1.3倍増加し, 過去5年平均値を上回り, 本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 定点医療機関の変更について

定点医療機関(伏見区)の変更があり, インフルエンザ定点数が68から67に, 小児科定点数が41から40に変更になりました。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: 風しん(検査診断例 8例, 臨床診断例 3例) 11例(第26週追加分 1例含む)【1月以降の累積報告数 163例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.50	140
	② ヘルパンギーナ	2.28	91
	③ 手足口病	1.83	73
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.68	67
	⑤ 水痘	0.78	31
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

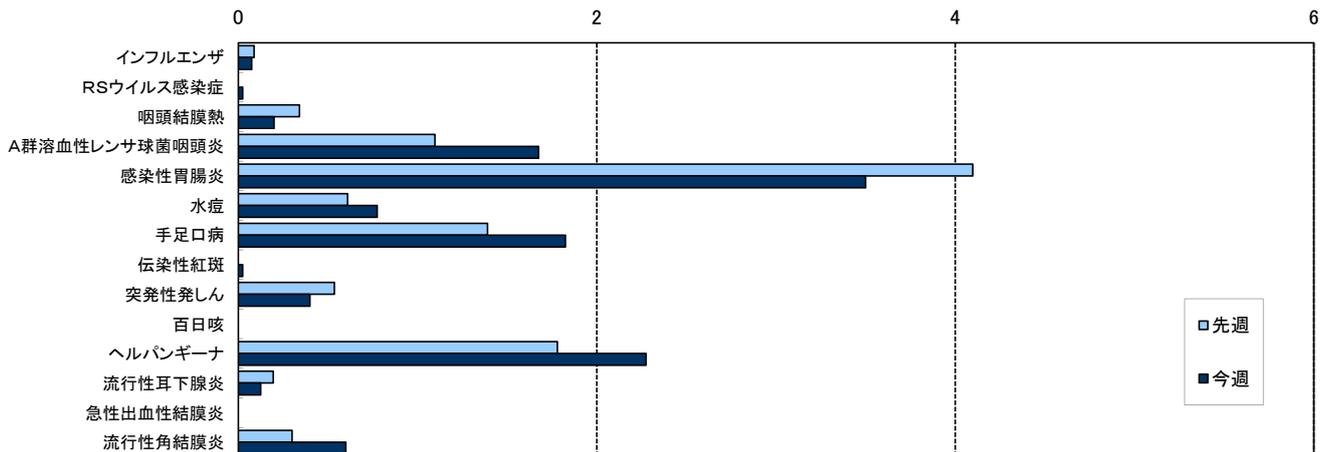
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

(注) 京都市のデータは, 平成25年7月11日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

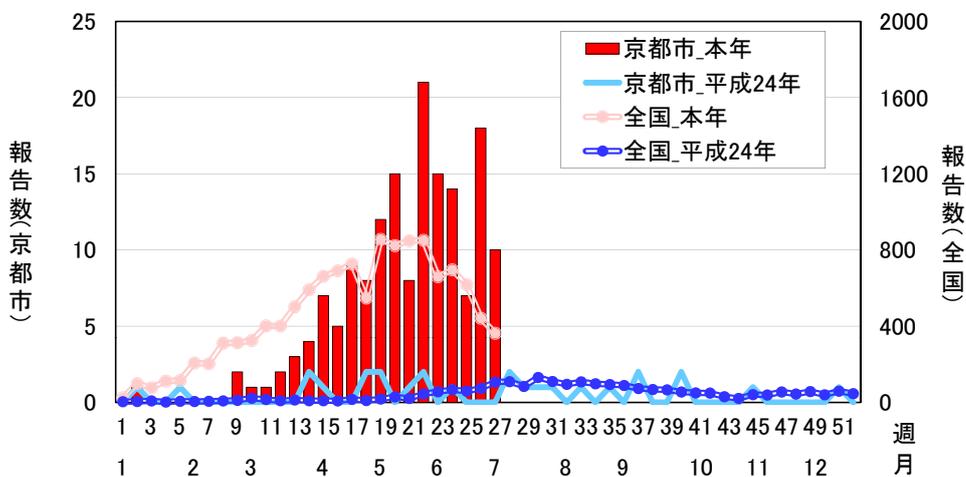
## 1 今週(第27週)と先週(第26週)の定点当たり報告数の比較



## 2 風しんの推移

今週の報告数(累積報告数)  
平成25年7月12日現在

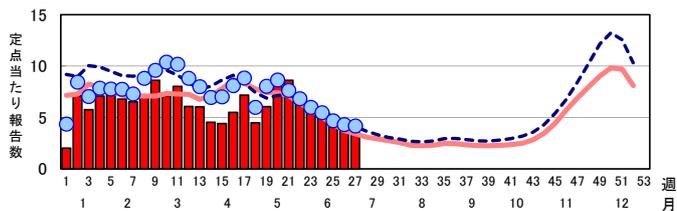
京都市	10例 (163例)
京都府(京都市を除く)	5例 (87例)
近畿6府県	138例 (4603例)
全国	381例 (12495例)



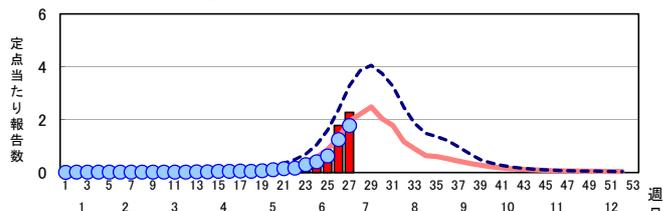
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

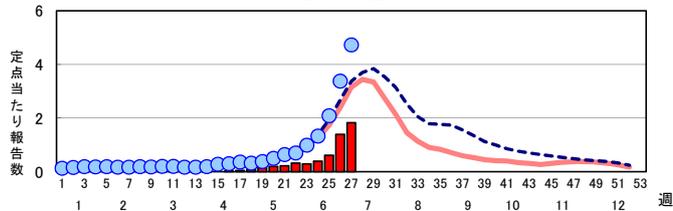
1 感染性胃腸炎



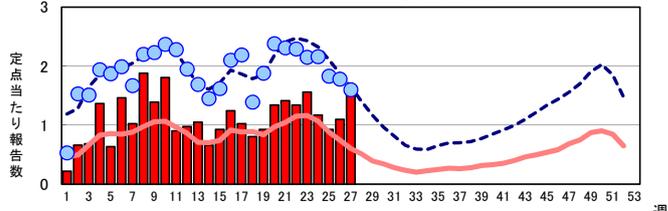
2 ヘルパンギーナ



3 手足口病

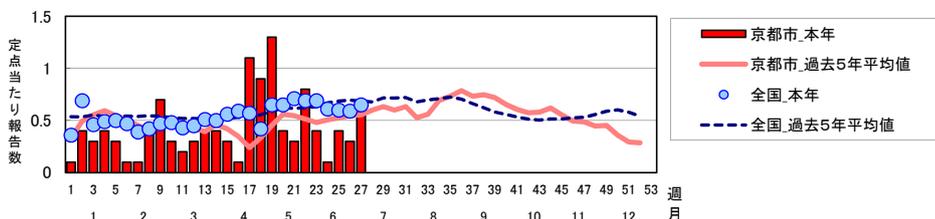


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



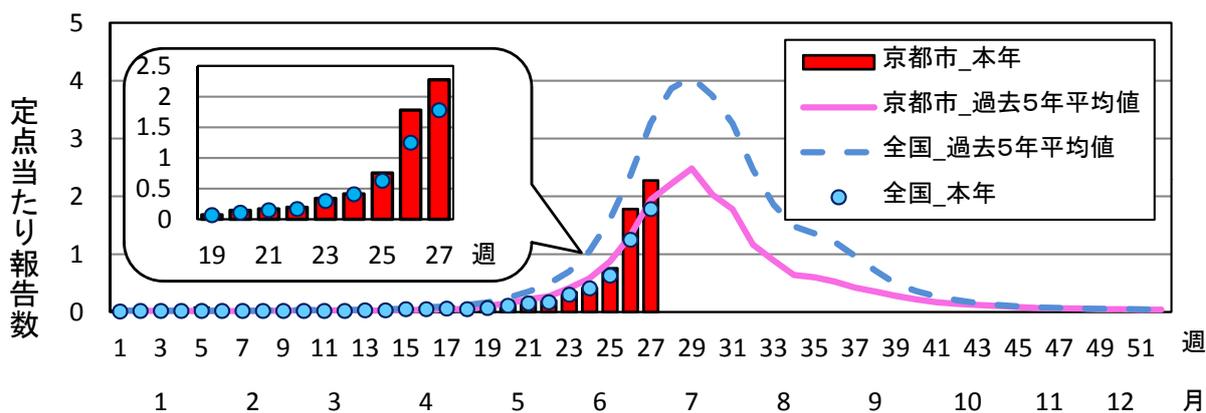
# 第27週(7月1日～7月7日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2.28(91例)で、前週 1.78(73例)に比べ約1.3倍増加し、過去5年平均値を上回り、本年度で最も多くなっています。第19週(5月6日～5月19日)以降、9週連続で増加しています。全国も同様に増加しています。ヘルパンギーナは季節性が明確で、毎年7月から8月にかけて流行しますので、今後の動向にご注意ください。

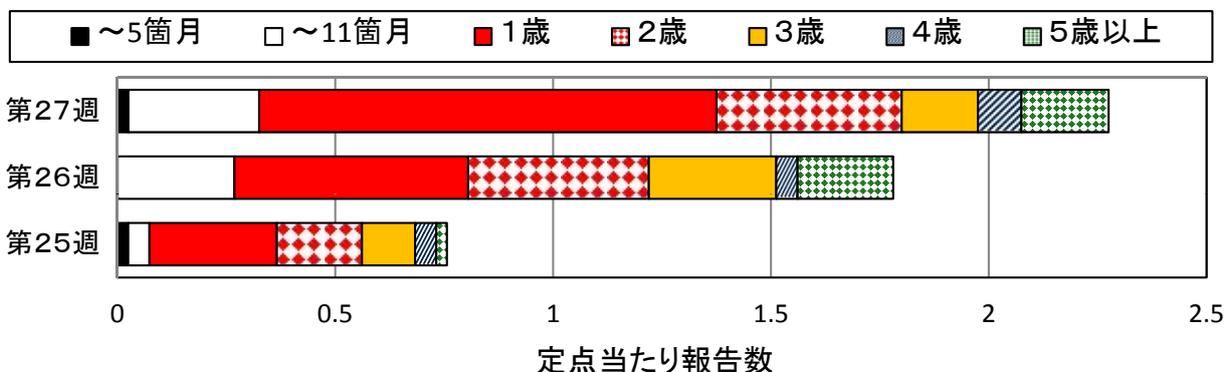
年齢階級別にみると、1歳が41例(46.2%)で最も多く、次いで2歳 17例(18.7%)、6箇月～11箇月 12例(13.2%)となっています。

本市及び全国で分離・検出された、ヘルパンギーナ由来のkokosakkyu-uirusは、平成21年及び平成23年にはkokosakkyu-uirusA(CA)10が、平成22年及び平成24年にはCA4が、最も多くなっています。平成25年は、本市及び全国共に、CA8が最も多く分離・検出されています。(平成25年7月12日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



本市及び全国のヘルパンギーナからのkokosakkyu-uirus分離・検出割合

